

# 19世紀前半におけるハンブルク・ジングアカデミーの活動について

—公開の演奏会の開催に至るまでの経緯とその意義—

犬 童 芙 紗\*

## The Activities of the Singakademie in the First Half of the 19th Century Hamburg

—The Start of the Public Concerts and their Meanings—

INDO Fusa

### abstract

In den dreißiger Jahren des 19. Jahrhunderts in Hamburg wurden verschiedene milde Anstalten im Hintergrund der sozialen Fragen der Unterschichten und der Erweckungsbewegung errichtet. In 1835 fing die in 1819 gegründete Singakademie an, alljährlich in der Karwoche eine öffentliche Aufführung zu veranstalten, die mit dem wohltätigen Zweck verbunden war und bis zum Jahre 1966 dauerte. Zunächst hatte sie wenige Konzerte vor dem Publikum gegeben. In dieser Arbeit werden die Umstände des Anfangs der regelmäßigen öffentlichen Aufführungen der Singakademie um 1835 aus ihren Protokollen untersucht, sowie ihre soziale Bedeutung für sie selbst und die damalige Hamburgische Gesellschaft überlegt.

Aus der Untersuchung ergibt sich, dass die Statuten der Singakademie in 1834, ein Jahr vor dem Anfang der alljährlichen öffentlichen Aufführungen, revidiert wurden. Die Revision führte auf den inneren Streit um die Einführung von Strafgebern gegen Fehlenden sowie zu spät Gekommenen bei den Übungen und die Permanenz des Vorstands zurück. Die Erweckungsbewegung, die damaligen sozialen Fragen und der Gemeinsinn der Hamburger gaben dem Verein Anlass zu den alljährlichen öffentlichen Aufführungen mit dem wohltätigen Zweck. Dadurch musste die Singakademie auch versuchen, ihre gemeinnützige Bedeutung zu bekommen und die Moral der Mitglieder sowie die innere Ordnung des Vereins zu erhalten.

Keywords : Hamburg, Singakademie, Choral Society, Public Concerts, Charity

### はじめに

1830年代のハンブルクには<sup>1</sup>、人口の増加と下層民の拡大に伴って深刻化した貧困や非行などの社会問題、及び教会覚醒運動Erweckungsbewegungを背景に、市民の有志によって慈善団体が相次いで設立された<sup>2</sup>。そのような時代背景の中で、「ジングアカデミー Sing-Akademie」も、1835年以降、毎年、聖週間に、教会で「公開の演奏会 öffentliche Aufführung」を開催し<sup>3</sup>、入場券やテキストの販売を通じて得た演奏会の収益金を慈善団体に寄付するようになった。ジングアカデミーは、1819年、ハンブルクに「宗教歌愛好家協会 Gesellschaft

---

キーワード：ハンブルク、ジングアカデミー、合唱協会、公開の演奏会、慈善

\*平成19年度生 比較社会文化学専攻

der Freunde religiösen Gesangs」という名称で設立された混声合唱協会である<sup>4</sup>。それは、活動目的に宗教的な歌を共同で練習することを掲げ<sup>5</sup>、自己の修養や仲間内での音楽的趣味の共有を目指して活動しており、当初は、一般聴衆を対象とした公開の演奏会を定期的には開催していなかった。しかし、1835年以降、ジングアカデミーは定期的に公開の演奏会を開催して、一般聴衆に演奏を披露し、かつ慈善に供する活動を始めた。聖週間に行う公開の演奏会は、ジングアカデミーの創立175周年記念誌によると、戦争による中断を挟みながらも1966年まで続き<sup>6</sup>、1世紀以上に渡って続くジングアカデミーの伝統となった。ジングアカデミーは、何をきっかけに、1835年から毎年定期的に、慈善を目的として公開で演奏会を開催するようになったのであろうか<sup>7</sup>。

本稿では、まず、ジングアカデミーが1835年から定期的に公開で演奏会を開催するようになった経緯を、ハンブルク州立・大学図書館に所蔵しているジングアカデミーの議事録<sup>8</sup>を利用して明らかにしたい。また、定期的な公開の演奏会がジングアカデミーの活動にとって、及び、ハンブルク都市社会においてどのような意義を有していたのか、当時の社会状況を踏まえ、ハンブルク州立公文書館に所蔵しているジングアカデミーの公開の演奏会に関する市参事会と教会の史料<sup>9</sup>も用いて考察する<sup>10</sup>。

## 1. ハンブルク・ジングアカデミー

### 1.1. ジングアカデミー設立

ジングアカデミーの設立を進めたのは、二人の音楽家、グルントFriedrich Wilhelm GrundとシュタインフェルトJacob Steinfeldt、及び「定評ある音楽の愛好家・後援者」のキルヒナーJohann Friedrich Kirchner、クンハルトDr. med. August Georg Friedrich Kunhardt、シュトックフレートDaniel Stockfleth、トゥルマーDr. Carl Trummer、アウフムオルトConrad A. Auffm'Ordtである。彼らは、1819年の復活祭から11月25日の創立日に至るまで、何度も集まって設立計画を立てた<sup>11</sup>。

ジングアカデミーの運営は、1833年までは、ジングアカデミーの創立者たちが掌握する。監督Direktor（音楽監督）に就任したのは、グルントとシュタインフェルトである<sup>12</sup>。キルヒナー、クンハルト、シュトックフレートの3名は理事Vorsteherに、アウフムオルトは書記Sekretairに就任する。その他、音楽家のJ. F. シュヴェンケJohann Friedrich Schwenckeが司書Bibliothekarに就任し、楽譜の管理を担当した。以上の監督2名、理事3名、書記、司書が委員会Committeeを構成し、ジングアカデミーの運営や活動について決定した<sup>13</sup>。

そもそも、ハンブルクにジングアカデミーを設立する案が持ち上がったのは、1818年9月7、9日に聖ミヒャエル教会で開催した音楽祭においてであった。その音楽祭は、宗教改革三百周年に因んで1817年11月11日のルター生誕日にリュベクで行われたヘンデル《メサイア》の演奏に影響を受けて行われ、聖ミヒャエル教会に集まった500人もの人々によって、《メサイア》とモーツァルト《レクイエム》が演奏された。その後、この音楽祭の参加者たちの間からしばしば、ハンブルクにも「教会音楽の練習と演奏にのみ取り組むより大きな協会を創立しようという希望が出た<sup>14</sup>。

だが、ジングアカデミーに入会するには、会則で、まず音楽監督か理事による推薦を受け、音楽監督による音楽的能力審査に合格した後、委員会における投票で過半数を得ることと定められていた<sup>15</sup>。音楽的能力を習得するために音楽のレッスンを受けられるのは経済的・時間的に余裕がある人々に限られることを踏まえると<sup>16</sup>、会員はほぼ有産市民に限定されていたと考えられる。1819年11月25日の設立時点におけるジングアカデミーの会員名簿には、71名（女性39、男性32）の名が記されている<sup>17</sup>。

### 1.2. ジングアカデミーの日常的な活動

ジングアカデミーは、毎年10月から翌年4月までの冬期に<sup>18</sup>、毎週木曜日の午後7時から9時に集まって活動し<sup>19</sup>、コラールや新しい及び古い宗教音楽を練習した<sup>20</sup>。

ジングアカデミーの議事録に残されている1819年11月25日から1821年10月25日までの練習記録によると、練習では、C. H. グラウン、J. S. バッハ、ヘンデル、J. ハイドン、モーツァルトら過去の音楽家だけでなく、シヒト、A. ロンベルク、ノイコム、シュナイダーら同時代の音楽家の宗教音楽も取り上げられた。グルント、J. F. シュヴェンケと彼の弟カール・シュヴェンケなど、ハンブルク出身の音楽家の作品も歌われている<sup>21</sup>。

練習は、「厳格でまじめな」ものとするために、原則として、聴衆の立ち入りは認められなかった。ただし、音楽監督や委員会の判断で、音楽愛好家や有名な音楽家の訪問を認める場合はあった<sup>22</sup>。

しかし、会員が日頃の練習成果を聴衆の前で発表する機会を設けることは、設立初期から考えられていた。1820年11月25日のジングアカデミー創立一周年には、会員の両親や親類を聴衆として招待して、「初めての公開の演奏会」を開催することが提案された。ここで使われている「公開」とは、ジングアカデミーの演奏を会員以外の誰かに聴いてもらうという意味である。しかし、ジングアカデミーの財政状況がまだ厳しかったため、創立一周年祭は「聴衆抜きで」、会員のみで開催することに決まった<sup>23</sup>。最終的には、11月25日が木曜日に当たらないこと、及び、木曜日以外の日にいつもの練習場所が使用できないことを理由に、中止された<sup>24</sup>。

### 1. 3. 1820年代におけるジングアカデミーの公開の演奏会

ジングアカデミーが初めて「公の場に出た」のは1823年である。1823年、ジングアカデミーはアポロ・ホールで2回、演奏会を開いた<sup>25</sup>。その内1つはフリーメーソン病院の依頼を受けて<sup>26</sup>、もう1つはチェロ奏者で作曲家のB. ロンベルク Bernhard Romberg の依頼で、彼の従兄弟で、ゴータで宮廷楽長を務めていたA. ロンベルクの遺族を支援するために行った<sup>27</sup>。

1823年11月17、19日には、聖ミヒヤエル教会で、「大規模な公開の音楽祭」が開催された。音楽祭には、ジングアカデミーの会員以外の音楽家や音楽愛好家も参加している。この音楽祭の収益金の3分の1は聖ミヒヤエル教会に、3分の1は聖ミヒヤエル教会を通じて病院に、3分の1は孤児院に寄付される<sup>28</sup>。

1825年4月11日にもアポロ・ホールで、ハンブルクのカントル兼音楽監督<sup>29</sup> C. F. G. シュヴェンケ Christian Friedrich Gottlieb Schwencke の死後に残された未成年の子どもたちを支援するために演奏会を開催した。これは、その子どもたちの叔父で後見人のクラリネット奏者ハルトマン Hartmann の依頼に応じて開催された<sup>30</sup>。

1827年2月27日には音楽監督グルントのために、翌1828年にはもう一人の音楽監督シュタインフェルトのために演奏会を開催している。これらの演奏会の収益金はそれぞれ、各音楽監督個人に渡された。両音楽監督のために演奏会を開催したきっかけは、グルントが委員会に、自らのオラトリオを「公開で自分のために」演奏したいと要望したことである。その際、委員会は、グルントだけに認めるのは公平でない判断したのか、翌年には、もう一人の音楽監督のためにも実施すると定めた<sup>31</sup>。

以上のように、ジングアカデミーは、設立当初は、公開の演奏会は不定期に開催していた。だがそれは、フリーメーソン病院や音楽祭を除けば、特定の個人を支援する資金集めのために開催したものであった。

## 2. 1834年の会則改定と公開の演奏会

### 2. 1. 1834年の会則改定

1834年、ジングアカデミーは会則を改定し、協会運営組織を改編した。会則改定の翌年からは、毎年、定期的に「公開の演奏会 öffentliche Aufführung」と「私的な演奏会 Privataufführung」を開催するようになる。ジングアカデミーの新しい会則は、1834年5月26日、全会員が出席する総会で承認された<sup>32</sup>。しかし、1834年に改定された時の会則は、現在、残っていない。従って、ジングアカデミーの会則が1834年にどのように改定されたかは、当時の議事録における記録と1844年11月25日の創立25周年祭において書記のゴスラー Dr. Ernst Göbler が行った演説<sup>33</sup>を手がかりにして見て行くこととする。

そもそも、ジングアカデミーが会則を改定した背景には、会員の練習意欲の低下、それに対処するために委員会によって導入された罰則、及び運営組織の成員が固定されていたことが挙げられる。まず、1828年9月24日に開かれた委員会の会合で、前年度の練習出席率の低さが議題に上がり、練習欠席者に罰金を課することが提案された<sup>34</sup>。会員の練習出席を促進し、協会を活性化させる手段として、1829年8月29日の委員会で、グルントが、理事の1人を退任させ、後任に女性を選んで委員会に加えることを提案したが、議論の末、却下された<sup>35</sup>。結局、1831年9月23日の委員会の会合で、毎回、練習に欠席あるいは15分以上遅刻して来た者から4シリングの罰金を徴収することが決定した<sup>36</sup>。しかし、罰金の徴収は委員会の思うようには進まず<sup>37</sup>、1832年10月29日には、罰金の導入を決定した委員会に不満を抱く一部の会員が陳情書を提出して、罰金の廃止と理事の交替を求めた。それ

に対して、委員会は会則を引き合いに出し、委員会には罰則を制定する権限が定められていること、及び、委員会の成員は永久にその地位を保持し、自分たちで成員を選ぶ権限が認められていることを根拠に挙げて、陳情書の要求を却下した<sup>38</sup>。その後、罰金の存続に関して会員による投票が行われ、賛成多数で存続が決定する<sup>39</sup>。しかし、依然として、罰金の支払いを拒否する会員もおり<sup>40</sup>、対立は収まらない。そこで、クンハルト、シュトゥックフレート、トゥルマー<sup>41</sup>が理事を、アウフムオルトが書記を辞任することとなった<sup>42</sup>。その後、1833年9月3日の総会で新しい理事を4名選出した後、会則改定に着手した<sup>43</sup>。

まず、これまで委員会のみであったジングアカデミーの運営組織が、音楽監督、書記、会計係の各1名、合計3名で構成される委員会と、ソプラノ、アルト、テノール、バスの各パートから1名ずつ選ばれ、合計4名で、女性2名と男性2名で構成される理事会に改編された<sup>44</sup>。音楽監督には任期はないが、書記と会計係、及び理事4名はジングアカデミーの全会員による選挙で選ばれ、再任は可能であったが、任期は2年とされた。罰則は、ジングアカデミーの規律を維持するために必要不可欠だとして、新しい会則に明記される<sup>45</sup>。改定した会則に則った委員と理事の選挙は、1834年10月13日に実施された<sup>46</sup>。

ジングアカデミーの運営組織の改編において注目すべき点は、女性を加えたことである。女性を運営組織に加えた理由としては、まず、女性会員をまとめる必要があったことが挙げられるだろう。かつての委員会は、欠席者と遅刻者から罰金を徴収すると決めた際、男性会員からは会計担当の理事が<sup>47</sup>、女性会員からは委員会が任命した女性に徴収させると定めていた<sup>48</sup>。会則改定後、新たにパートごとに選出されるようになった理事は、当該パートの成員から罰金を徴収する任務も担う<sup>49</sup>。女性を運営組織に加えたことは、当時のハンブルク市民女性と公の生活との関わりの一側面を示す事実としても興味深いことである。

演奏会に関しては、「私的な演奏会」を毎年少なくとも2回、「公開の演奏会」を毎年聖週間に1回開くと定められた<sup>50</sup>。「私的な演奏会」とは、ジングアカデミーの練習場所で、会員の「ごく近い親類」のみを招待して開く演奏会である<sup>51</sup>。それに対して、「公開の演奏会」とは、一般聴衆に演奏を披露するために開く演奏会である。「私的な演奏会」は、実質的には1822年から行われていた<sup>52</sup>。しかし、議事録に「私的な演奏会」という言葉が初めて現れたのは、1837年である<sup>53</sup>。つまり、「私的な演奏会」の概念は、ジングアカデミーの「公開の演奏会」の確立に伴い、それと対比する概念として登場したのである。

ジングアカデミーがこれまで不定期にしか行っていなかった公開の演奏会を定期的を開催することに決めた趣意には、ハンブルク市民の中に「新旧の古典作品の定期的な上演を通じて、教会音楽に対する感性をいっそう呼び覚まし、広める」ことが掲げられた<sup>54</sup>。この公開の演奏会開催趣意には、教会覚醒運動の思想が見える。ハンブルクでは、当時、とりわけ宗教関係者の間で、階層を問わず、人々の宗教に対する関心の低下や道徳心の衰退を嘆く声が上がっており、教会覚醒運動を通じて、人々の宗教心を復活させようとする人々も現れていた<sup>55</sup>。従って、ジングアカデミーが一般聴衆に対して演奏を披露することは、広く市民の宗教心の涵養と結びつけて意味付けられていたことが読み取れる。

1834年に会則を改定する前に協会の運営を巡って内部対立が起こったことを鑑みれば、公開で演奏会を開くことには、地元ハンブルクの都市社会への貢献という社会的使命を謳うことで、自分たちの活動の社会的意義を高め、協会内部の規律を維持しようとする意図もあったのではないかと考えられる。

## 2.2. 公開の演奏会と慈善

ジングアカデミーが聖週間に行う公開の演奏会、いわゆる「復活祭コンサート」<sup>56</sup>は、1834年に会則を改定した翌1835年から開催されるようになった。それは、演奏会の収益金を慈善活動に用いるために寄付する慈善目的を伴う演奏会となる<sup>57</sup>。

1835年4月13日聖月曜日に初めて開催した復活祭コンサートの収益金は、「保育所 Warteschulen」<sup>58</sup>に寄付された。1835年の復活祭コンサートの収益金を保育所に寄付することは、保育所の幹部からの依頼を考慮して、演奏会の約1ヶ月前の3月8日に開かれた委員会と理事会の会合で決定していた<sup>59</sup>。

最初の復活祭コンサートを終えた半年後、1835年9月9日に開かれた委員会と理事会の会合では、それ以後、ジングアカデミーが毎年聖週間に教会で行う公開の演奏会は慈善目的で行うことが決定した<sup>60</sup>。ジングアカデミーの復活祭コンサートは、聖ペテロ教会や聖ミハエル教会で開催されている<sup>61</sup>。教会を演奏会の会場として

使用する許可は、会場となる教会に申請し、最終的には、教会行政権を握る市参事会の決定に委ねられる<sup>62</sup>。市参事会の決定は警察署にも伝えられ、演奏会当日には、警察が観客の安全を確保し、会場周辺の混乱を防止するために警備に当たった<sup>63</sup>。

復活祭コンサートの収益金の寄付先は、その都度、委員会と理事会の話し合いによって決定された。収益金は、保育所の他、貧民及び病人扶助のための婦人協会、「困窮者のための貸付金庫Vorschuß-Anstalt für Hilfsbedürftige」、ラウエス・ハウス、1842年のハンブルク大火で焼失した聖ペテロ教会と聖ニコラウス教会にも寄付されている<sup>64</sup>。

ジングアカデミーの復活祭コンサートは、慈善団体、教会、市参事会、警察署の公認の下で開催され、単に自分たちの演奏を一般聴衆に公開するだけに留まらず、公共的な目的を持って開催された。そもそも共和制都市ハンブルクでは、伝統的に、市民、とりわけ富と地位を手に入れた市民にとって、自分の時間、労力、財産を公共のために使用し、公益に奉仕することこそが、自らの都市共同体への帰属意識や市民としての自負を形成すると認識されていた<sup>65</sup>。そのため、当時、貧困や非行などの社会問題に対処すべく、市民の有志によって多くの慈善団体が設立された<sup>66</sup>。ジングアカデミーの公開の演奏会が慈善と結びつけられたことは、ハンブルクにおける慈善活動の活発化とも関係しているだろう。

### 2.3. 公開の演奏会における公共性

ジングアカデミー設立初期の公開の演奏会は、主に、ジングアカデミーと縁のある個人や音楽監督を支援するために実施されていた。1827年と1828年に両音楽監督グルントとシュタインフェルトそれぞれのために演奏会を行う際には、開催日が近づくと、ジングアカデミーの練習時間を演奏会に向けた練習に充てることが認められた<sup>67</sup>。1834年に会則を改定した後も音楽監督のための演奏会は開かれている。しかし、それらをジングアカデミーの公開の演奏会として開催するにあたっては、その妥当性が問われるようになった。

1840年12月7日、グルントのための演奏会が、本人の希望で開催された。その演奏会の開催は、その約1ヶ月前の11月16日に開かれた委員会と理事会の会合で決定する。だがそれは、演奏会に向けたあらゆる準備がすでに整っていたことを鑑みて、例外的に承認されたのであった。従って、このために中止となった練習の夕べは、本来なら4月に終わるはずのジングアカデミーの活動期間を1週間延長して振り替えられた<sup>68</sup>。

1845年11月7日、グルントは、書記ゴスラーに宛てて書簡を記し、自身が25年間ジングアカデミーの音楽監督を務めていることを理由に挙げて、年1回、ジングアカデミーの支援で、自身のために演奏会を開いてくれるよう要望した<sup>69</sup>。彼の要望に対して、ジングアカデミーの委員会は、グルントのために毎年、公開で演奏会を開催することは承認しないと表明する。ただし、グルント自身の「私的な企画」として実施するのであれば、演奏会へ向けた練習をジングアカデミーの練習とは別の時間に行うという条件で、実施することを認めた<sup>70</sup>。これは、ジングアカデミーの公開の演奏会は個人の利益とは切り離して行うべきだとする意識の表れである。グルントのための演奏会は、1846年2月7日にアポロ・ホールで開催された<sup>71</sup>。

その後、1846年3月7日にも再び、グルントの希望で、彼の名の下、アポロ・ホールで会員のベルタ・ベーレンスのために演奏会を開催した。最終的には、2月23日の練習に出席した会員のほぼ全員が演奏会への協力を表明する。しかし、その3日前の2月20日に会員による投票で開催の是非を問うた時には、ジングアカデミーとして、再びグルントの名において、個人のために「公の場に出る」ことに反対の意を表明する会員も数人いた<sup>72</sup>。

1865年2月10日に聖ミハエル教会で開催した演奏会は、当初は、委員会と理事会の会合において、グルント個人を支援するために行うことが提案された。しかし、聖ミハエル教会から、演奏会の収益金を何らかの慈善目的に供するという条件でなければ、会場として利用することを認めないと伝えられる。グルントもまた、「公開のコンサート」を自分のために開催することは望んでいないという意味を表明した。そのため、1865年2月10日の演奏会の収益金は、聖ペテロ教会建築のために寄付することとなったのである<sup>73</sup>。

ジングアカデミーは1834年に会則を改定して以降も、特定の個人を支援するために公開で演奏会を実施したことはある。しかし、それは一般聴衆を対象とした公開の演奏会ではあったが、個人の私的な事柄と見なされ、ジングアカデミーの公開の演奏会として開催することの妥当性が問われた。ここから、ジングアカデミーの公開の演奏会は、1834年の会則改定を境に、公共的な目的と結びつけて行う「公共的な公開」演奏会という意識に変化

したことは明らかである。

## おわりに

ジングアカデミーが1835年以降、定期的に公開で演奏会を開催するようになった契機は、その前年、1834年に行った会則の改定であった。会則改定の背景には、会員の練習出席率の低下に表れる協会の規律の低下、及び、その解決策として罰則を導入した委員会に対する一部の会員の反発があった。

会則の改定によって、まず、それまで創立時の中心的人物で固定されていたジングアカデミーの運営組織の成員が、総会において会員の投票で選ばれ、任期制となる。その運営組織には、女性理事の職も置かれる。また、協会の規律を保つために、練習欠席者・遅刻者に対する罰金も導入することが改めて決まった。

さらに、ジングアカデミーの新しい会則では、毎年、定期的に演奏会を実施することが明確に定められた。ジングアカデミーの演奏会には、大きく分けて二種類あったが、会員の親類に日頃の練習成果を聴いてもらう「私的な演奏会」であれ、大勢の一般聴衆の前で演奏を披露する「公開の演奏会」であれ、定期的に人前で演奏を披露する機会を与えることも、会員の練習意欲を保つ手段の一つとして考え出されたのであろう。公開の演奏会は、公共的な目的と結びつけられる。また、当時ハンブルクで生じていた教会覚醒運動、及び貧困や非行等の社会問題に対する市民の関心と公共心も、ジングアカデミーが公共的な公開の演奏会を始めるきっかけとなったであろう。すなわち、ジングアカデミーが1835年から毎年、公開で演奏会を開催するようになった背景には、会員の士気と協会内部の規律の維持という内的要因に加え、教会覚醒運動、及び貧困や非行等の社会問題の深刻化という外的要因もあったのではなかろうか。公開の演奏会を公益に供するものと意味付けることは、ジングアカデミーの活動に明確な社会的意義を与えることにも繋がる。ジングアカデミーは、「公共的な公開」演奏会を通じて、公共的な価値を高めると同時に、会員の士気と協会内部の規律を維持することを図ったのではないかと考えられる。

1834年の会則改定がジングアカデミーにもたらした変化には、運営組織の改編も挙げられる。まず、運営組織を選挙制にしたことは、権威主義的な運営組織の民主化と捉えられ、当時の民主化の動きを反映しているのだろうか。また、ジングアカデミーの運営組織に女性を加えたことは、当時のハンブルク市民社会におけるジェンダー秩序とどのように関係していたのであろうか。これらの問題については、今後の課題としたい。

## 註

1 ハンブルクは、1815年、自由ハンザ都市としてドイツ連邦に加盟する。市の統治体制は、市参事会 (Rat乃至Senatと称されていた) と有産市民から成る市議会Erbgesessene Bürgerschaftによる共同統治であった。市参事会は市長4名と市参事会員24名で構成されるが、商人と法律家から成る大市民層で占められ、その成員は終身制で、欠員が出たら自分たちで新しい成員を選んで補充していた。Evans, Richard J., *Death in Hamburg: Society and Politics in the Cholera Years, 1830-1910*. Oxford: Clarendon Press, New York: Oxford University Press, 1987, pp. 12-15.

2 Ahrens, Gerhard, „Von der Franzosenzeit bis zur Verabschiedung der neuen Verfassung 1806-1860“, in: Jochmann, Werner, und Hans-Dieter Loose (Hg.), *Hamburg: Geschichte der Stadt und ihrer Bewohner, Bd. 1 Von den Anfängen bis zur Reichsgründung*. Hamburg: Hoffmann und Campe, 1982, S. 452-454. ハンブルクの人口は、市外からの労働者の流入に伴って、1821年に127,985、1830年に144,383、1840年に154,986と増加する。19世紀前半のハンブルクにおいて、住民の5分の3は困窮した生活を送っていたと見られている。教会覚醒運動とは、19世紀初頭にプロテスタント内で生じた宗教生活の再生を目指す運動であり、その一環として慈善活動も始められた。ハンブルクでは、1832年に上層市民層の女性A. ジーフェキングAmalie Sievekingが「貧民及び病人扶助のための婦人協会 Weiblicher Verein für Armen- und Krankenpflege」を設立し、1833年には神学者ヴィヒェルンJohann Hinrich Wichernが非行青少年のための教育施設「ラウエス・ハウスRauhes Haus」を建設した。

3 SUB Hamburg: SAH (詳細は註8を参照) : 1 : A : *Protocoll des Gesang-Vereines A vom 25. 11. 1819- 25. 11. 1844*, S. 209-210. ジングアカデミーの議事録では、公開で演奏会を開催することを、「公の場に出る öffentlich auftreten」とも表されている。

4 „Plan für die Gesellschaft der Freunde religiösen Gesangs zu Hamburg 1819“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 1. 1889年までのハンブルク・ジングアカデミーの活動は、公開の演奏会で演奏された曲目を中心に、Sittard, Josef, *Geschichte des Musik-*

- und Concertwesens in Hamburg vom 14. Jahrhundert bis auf die Gegenwart.* Altona und Leipzig: Verlag von A. C. Reher, 1890. Reprografischer Nachdruck von Hildesheim; New York: Georg Olms Verlag, 1971, S. 290-304にまとめられている。ジングアカデミーは、議事録では、当初、「合唱協会Gesang-Verein」と自称し、1844年から「ジングアカデミーSing-Akademie」と名乗っている。市参事会の公文書では、「グルントの合唱協会Grundscher Gesangverein」、1851年からは「グルントのジングアカデミーGrundscher Sing-Akademie」と称されている（StAH（詳細は註9を参照）、512-2 St. Petrikirche, A. 14. c. 2. a; b.）。*Hamburgische Address-Bücher*には、1821年から1829年までは「合唱協会」として、1830年になって初めて「宗教歌愛好家協会」として掲載されている。現在も「ハンブルク・ジングアカデミー Hamburger Singakademie」という名称で存続している。
- 5 „Plan 1819“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 2.
- 6 SUB Hamburg: SAH : 2 : 2 : 12 : *175 Jahre Hamburger Singakademie, 1819-1994.*
- 7 合唱協会の演奏活動に、都市市民層の「市民的地位」が表現されていたことは、井上登喜子「合唱協会の演奏活動における市民的表現行動—19世紀ドレスデンを例に一」（『人間文化論叢』第5巻（2003）、43-54頁）において指摘されている。ドイツの合唱協会研究は、1791年にドイツで最初に設立され、バッハ《マタイ受難曲》の復活演奏（1829年）を成し遂げたベルリン・ジングアカデミーは比較的良好に注目されるものの、研究蓄積は少ない。その背景には、研究者のアマチュアの音楽活動に対する関心の低さがあると考えられる。だが、男声合唱協会の合唱祭や祝祭の政治的機能に関する研究は、音楽学と歴史学を中心に数多く行われており、松本彰「一九世紀ドイツにおける男声合唱運動—ドイツ合唱同盟成立（一八六二年）の過程を中心に」姫丘とし子・長谷川まゆ帆・河村貞枝・松本彰・中里見博・砂山充子・菊川麻里『近代ヨーロッパの探究⑩ ジェンダー』（ミネルヴァ書房、2008年、111-161頁）などがある。
- 8 1819年から1844年についてはStaats- und Universitätsbibliothek Hamburg Carl von Ossietzky（以下SUB Hamburgと略）: Singakademie Hamburg（以下SAHと略）: 1 : A : *Protocoll des Gesang-Vereines A vom 25. 11. 1819 - 25. 11. 1844*, 1844年から1894年についてはSUB Hamburg: SAH : 1 : B : *Protocoll des Gesang-Vereines B vom 11. 12. 1844 - 24. 11. 1894*に記録されている。
- 9 聖ペテロ教会で開催した演奏会に関してはStaatsarchiv Hamburg（以下StAHと略）、111-1 Senat, Cl. 7. Lit. Hc No. 3 Vol. 17（1817, 1822-1842, 1851, 1852年、聖ペテロ教会における宗教音楽の演奏）; StAH, 512-2 St. Petrikirche, A. 14. c. 2. a（1836-1842年、ジングアカデミーの宗教コンサート）; A. 14. c. 2. b（1850-1861, 1863年、ジングアカデミーの宗教コンサート）、聖ミハエル教会で開催した演奏会に関してはStAH, 111-1 Senat, Cl. 7 Lit. Hc No. 7 Vol. 22（1860-1865年、聖ミハエル教会における宗教コンサートの許可）; Vol. 33（1866-1870（1871）年、聖ミハエル教会における宗教コンサートの許可）がある。
- 10 ハンブルクには、1823年には男声合唱協会「リーダーターフェルLiedertafel」が、1840年には混声合唱協会「ツェツィーリア協会 Cäcilienverein」も設立されているが、議事録は残っていない。Sittard（1890）、S. 339-356（ツェツィーリア協会）; Todt, Hartwig, „Liedertafel“, in: Kopitzsch, Franklin, und Daniel Tilgner (Hg.), *Hamburg Lexikon.* Hamburg: Zeise, 2000, S. 303-304（リーダーターフェル）
- 11 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 1.
- 12 1833年まではグルントとシュタインフェルトが共同で音楽監督を務める。グルントは1863年まで音楽監督の地位に留まる。その後は、シュトックハウゼンJulius Stockhausen（任1863-68）が就任する。
- 13 „Plan 1819“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 3-5. 書記と司書には投票権はなかった。
- 14 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 202-203. ハンブルクには、その時点ですでに、音楽愛好家たちから成る合唱協会は設立されていたが、「この町（ハンブルク）の大勢の愛好家と音楽家全ての入会が許されているわけではなかった」という（„Plan 1819“, in: *Protocoll A*, S. 2）。
- 15 „Plan 1819“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 5-6.
- 16 Evans（1987）、p. 51; Kraus, Antje, *Die Unterschichten Hamburgs in der ersten Hälfte des 19. Jahrhunderts. Entstehung, Struktur, Lebensverhältnisse. Eine historisch-statistische Untersuchung.* Stuttgart, 1965, S. 75-76. 19世紀前半のハンブルクにおいて、妻が賃労働に従事しなくても経済的に豊かな生活を送れた住民は、全体の20パーセント程度であったと見られる。
- 17 „Liste der erwählten Mitglieder“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 11-13. 会員名簿には、市参事会員Senator、牧師Pastor、博士Dr.等を除けば、会員一人一人の身分や職業は記載されていない。ジングアカデミーは女性が多く所属し、その比率は年を追うごとに高まる傾向にある。1832/33年には女性42名、男性38名（合計80名）であったのが（*Protocoll A*, S. 90-91）、1866/67年には女性127名、男性58名（合計185名）となっている（*Protocoll B*, S. 163）。
- 18 1819/20年は、会員の要望により、夏期も練習を実施したが（練習日時は水曜日の午後1時から3時、SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 23-24, 204）、出席率の低さを鑑みて、翌年以降、夏期は練習を中断することになった（*Ibid.*, S. 46, 51, 204）。
- 19 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 9, 27, 50. 練習は、ハンブルク市民の邸宅を借りて行った。当初は芸術・工芸品の仲買人ノートNoodt氏の邸宅で、1822年5月から1841年9月までは楽譜商ペーメBöhme氏の邸宅で行っていた。その後は頻りに練習場所を変えている。
- 20 „Plan 1819“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 8-9. 1822/23年度からは、練習日を毎週月曜日に変更する（*Ibid.*, S. 51）

犬童 19世紀前半におけるハンブルク・ジングアカデミーの活動について

- 21 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 14-23, 25-32, 34-35, 39-49.
- 22 „Plan 1819“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 9.
- 23 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 33.
- 24 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 36.
- 25 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 204.
- 26 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 52.
- 27 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 53.
- 28 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 54-57, 204. グルト 《イエスの復活と昇天Die Auferstehung und Himmelfahrt Jesu》とヘンデル《ユダス・マカベウス》を上演した。入場券は1枚2マルクで販売され、17日の分の入場券は2291枚売れた他、無料券も208枚配られた。19日の分は2723枚売れ、188枚の無料券が配られる。
- 29 ハンブルクの市立ラテン語学校「ヨハネウム」の教師・聖歌隊指揮者兼市の教会音楽監督。1822年のシュヴェンケの死後は、欠員補充は実施されなかった。犬童芙紗「カントル職に見る十八世紀の都市と音楽—ハンブルク公文書館の史料より—」『お茶の水史学』51(2007)、1-33頁。尚、C. F. G. シュヴェンケは、ジングアカデミー創設時の司書J. F. シュヴェンケの実父でもある。
- 30 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 62-70, 72. C. F. G. シュヴェンケ《我が父よVater unser》とヘンデル《アレクサンダーの饗宴》を上演した。入場券は1枚3マルク12シリングで販売し、故シュヴェンケの友人を介し、3月の時点ですでに約700枚売れていた。1マルクは16シリングに相当する。例えば、19世紀前半における5人家族の1週間分の食費が5マルク6½シリングであったとされる。Kraus (1965), S. 61.
- 31 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 74-75, 77.
- 32 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 101-102.
- 33 演説の内容はSUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 201-215に記録されている。
- 34 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 78.
- 35 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 81.
- 36 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 86-87.
- 37 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 89.
- 38 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 92.
- 39 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 93-94.
- 40 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 95.
- 41 „Plan 1819“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 59-60. キルヒナーは1824年に理事を辞任し、その後任には、委員会によってトゥルマーが選出された。
- 42 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 95.
- 43 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 97, 99-103.
- 44 議事録には、ジングアカデミーの運営組織の会合は、「委員会と理事会の会合」と記されている。
- 45 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 208-209.
- 46 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 103.
- 47 会計は、理事3名が毎年交替で担当していた。„Plan 1819“, in: SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 3.
- 48 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 87.
- 49 SUB Hamburg: SAH : 1 : B : *Protocoll B*, S. 13, 38.
- 50 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 209-210.
- 51 私的な演奏会が1865年12月30日まで実施されていたことは、議事録から確認できる。
- 52 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 53.
- 53 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 129.
- 54 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 209-210.
- 55 Lahrson, Ingrid, *Zwischen Erweckung und Rationalismus. Hudtwalcker und sein Kreis*. Hamburg: Friedrich Wittig Verlag, 1959, S. 101-102.
- 56 ジングアカデミーで毎年聖週間に行うコンサートは、1835年から1842年及び1850年から1863年までは復活祭前の聖月曜日に、1864年以降は、大抵、聖火曜日に開催されている。1843年から1849年までは、大火で焼失した聖ペテロ教会が使えず、代替会場となった聖ミヒヤエル教会から聖週間に開催する許可が得られなかったため、開催日が復活祭後の木曜日に設定された (SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 211)。それらのコンサートを指す呼称は、ジングアカデミーの議事録では、聖週間に開催するものであれ、復活祭後の週に開催するものであれ、「復活祭コンサートOsterconcert」がよく用いられている。議事録には、その他、「宗教コンサートgeistliches Concert」や「教会コンサートKirchenconcert」としても言及されている (*Protocoll A; B*)。市参事会や教会の資料、及び

- コンサート前に新聞に掲載される「警察命令」には、「宗教コンサート」という表現が多く用いられている (StAH, 111-1 Senat, Cl. 7. Lit. Hc No. 3 Vol. 17; No. 7 Vol. 22; Vol. 33; 512-2 St. Petrikirche, A. 14. c. 2. a; b)。
- 57 ジングアカデミーは聖週間以外にも、定期的にはないが、慈善を目的とした演奏会を開催している。しかし、ここでは、聖週間に開催されたもののみ焦点を当てることとする。
- 58 ドイツ語の複数形になっているのは、保育所が、1830年初頭に1校目が、同年11月に2校目が設立された後、1834年に3校目、1835年に4校目、1840年に5校目、1843年に6校目、1856年に7校目と増設されたからである (*Hamburgisches Adress-Buch für das Jahr 1831*, S. 662-663; *für das Jahr 1845*, S. 481; *für das Jahr 1857*, S. 305)。保育所は、港湾労働、工場労働、手工業、露店商などに従事する労働者階級の家系の2歳から6歳までの子どもたちを、昼間、両親が働きに出ている間、預かり、監督し、非行化するのを防ぐのを目的として設立された施設である。
- 59 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 104-105. シュポーア《最後の事柄Die letzten Dinge》を上演した。演奏会の入場券は1枚2マルクで3141枚売れた。
- 60 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 107.
- 61 1835年から1842年までは聖ペテロ教会で開催している。1842年のハンブルク大火で聖ペテロ教会が焼失した後、1843年から1849年までは聖ミヒヤエル教会に会場を移す。1850年から1861年まで、及び1863年は聖ペテロ教会で、1864年は聖ニコラウス教会で開催する。1862年、及び1865年以降は聖ミヒヤエル教会で開催している。
- 62 StAH, 111-1 Senat, Cl. 7. Lit. Hc No. 3 Vol. 17. 1837年から1842年までの分の聖ペテロ教会におけるジングアカデミーの演奏会開催許可決定に関する市参事会の議事録が残っている。
- 63 StAH, 512-2 St. Petrikirche, A. 14. c. 2. b. コンサート開催前にハンブルクで発行された新聞に掲載された「警察命令」が残っている。
- 64 復活祭コンサートの収益金は、1835年から1876年までは以下の団体に寄付されたことが判明している。1835年：保育所（以下Wと略）、1836年：貧民及び病人扶助のための婦人協会（以下Aと略）と困窮者のための貸付金庫、1837年：W、1838年：A、1839年：W、1840年：A、1841年：ラウエス・ハウス（以下Rと略）、1842年：A、1843年：W、1844年：1842年のハンブルク大火で焼失した聖ペテロ教会と聖ニコラウス教会、1845年：W、1846年：AとR、1847年：W、1848年：A（シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン戦争（1848-1851）勃発の影響で中止）、1849年：A、1850年：W、1851年：A、1852年：W、1853年：A、1854年：聖ペテロ教会内部の装飾、1855年：W、1856年：A、1857年：W、1858年：W、1859年：W、1860年：W、1861年：W、1862年：聖ヤーコブ教会とW、1863年：W、1864年：W、1865年：W、1866年：A、1867年：A、1868年：A、1869年：Aの小児病院、1870年：W、1871年：W、1872年：W、1873年：W、1874年：W、1875年：W、1876年：W。SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*; B : *Protocoll B*; 及びStAH, 111-1 Senat, Cl. 7 Lit. Hc No. 7 Vol. 33に基づいて整理した。
- 65 Aaslestad, Katherine Barbara, *Place and Politics: Local Identity, Civic Culture, and German Nationalism in North Germany during the Revolutionary Era*. Leiden and Boston: Brill Press, 2005, pp. 41-45.
- 66 Evans (1987), pp. 74-75.
- 67 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 74-75, 77.
- 68 SUB Hamburg: SAH : 1 : A : *Protocoll A*, S. 150.
- 69 SUB Hamburg: SAH : 2 : 2 : 3 : Beilage zum Protokoll Nr. 10.
- 70 SUB Hamburg: SAH : 1 : B : *Protocoll B*, S. 15-16.
- 71 SUB Hamburg: SAH : 1 : B : *Protocoll B*, S. 21.
- 72 SUB Hamburg: SAH : 1 : B : *Protocoll B*, S. 21-23. これ以後、ジングアカデミーの議事録には、グルントのために公開の演奏会を開催したという記録はない。
- 73 SUB Hamburg: SAH : 1 : B : *Protocoll B*, S. 131-133.